

エックがあった。日本では空港ぐらしか経験しないセキュリティーチェック、子どもたちは違和感を感じながらも素直であった。こうしたチェックをしなくても良い世界が望ましいことは言うまでもない。少ない時間だが生徒と一緒に見学するファミリーが実に楽しそうであった。

4 ウェルカムパーティー

到着3日目に生徒主催のパーティーが教会で開かれた。シンプソン夫妻や日本人で米国人と結婚されている方など、多くの方がボランティアとして設営に協力をしていただいた。生徒も積極的に動いた。開始時刻少し前、デリバリーでのピザを始め各家庭でつくられた料理が並び、パーティーの雰囲気だ。ファミリーがファミリーを呼び大きな集会室が一杯となった。生徒の出し物は3グループ



あり「だるまさんが転んだ」「習字で名前を日本風に」「折り紙挑戦」など。ファミリーの子どもたちは積極的だ。にぎやかさも頂点になったころ、2名の生徒が飛び入りで用意をしていただいたピアノでのジャズ即興演奏となった。体を揺らしリズムをとる小さな子どもたちの生き生きとした姿に笑顔もはち切れるほどとなった。最後に生徒全員で‘コスモス’の合唱を披露すると会場内は美しいハーモニーに酔いしれた顔・顔・かおとなった。

終了後、乾燥の地に突然の大雷雨。だが片付けを終わり帰る時刻にはびたりとやんだ。この日から土曜日・日曜日で生徒はたっぷり家庭に入り込んだ。

5 古きアメリカの誇り

建国から日が浅い（日本と比べ）国ほど、短い歴史を大切にすると聞きます。アメリカ東部には初期の移民が住み始めた地域がそのままの状態が残っています。今回もそうした古きアメリカの地を訪れました。生徒にとってはあまり興味のわく地ではない感じがしました。初期の粉ひき水車小屋などにとっても感ずるものがありました。逆にインデアンを追



いやった歴史でもある。オールドタウン、古き良き時代の心も残したいという気持ちが私には伝わってきました。子どもたちにはどう映ったことでしょう。

6 ホロコースト記念館と千畝

ホロコースト記念館のセキュリティーも相変わらずであった。この記念館訪問は毎回の大きな研修目的の一つである。原爆資料館に何度か訪れたが、この記念館の資料展示は、戦争の責任を厳しく問うものであった。誰がどのような状況からこうした残虐な行為を行っていったかを、明確な視点とフィルタリングがされていない残酷な映像でせまるものであった。ユダヤ人の方の悲痛な思いが伝わってきた。見学者も多い。我が子に一つ一つ説明し、抱きかかえるようにして涙する多くの見学者の姿。息苦しささえ感ずるさきにユダヤ人を救った方を讃える映像を見つけ、やっとほっとした。一角に杉原氏の写真が輝いてみえた。見学に先立ち、



死の淵からの生還をされた体験者（女性）しか語れない生々しいお話をお聞きした。厳しすぎる当時の現実を子どもたちはどう理解したのだ

ろう。ドイツではこの反省に立つ戦後となっている（以前の訪問で感じた）。

7 ニューヨークになぜ人が集まるのか

人・人・人！夜のニューヨークを生徒が満喫した？特にタイムズスクエアガーデン付近は歩くことが困難なほど人が集まっている。東京の新宿・池袋・六本木の数倍といった雰囲気である。通りの壁面は先端の映像技術をうまく使い、観る人を飽きさせない。路上パフォーマンスや怪しい雰囲気の若者達。英語だけでなくいろいろな言語が飛び交い、まさに世界のニューヨークだ。自由な雰囲気だが、治安が保たれている良さに多くの人々が心の飢えを求めて・・・いや一夜の夢の世界に酔いしれているのだろうか。一方でグランドゼロに象徴されるように、この



地はイデオロギーや経済活動に対する注目度が高く、何が起きても世界への発進力ある。ニューヨーク発が様々な基準とされている。だからこそ人は集まるのだろうか。

8 京都議定書を批准しない理由がわかる

国連本部で日本人の勤務者に説明をしていただ